ハトダヨ
2017年
9月号

函館市中央図書館だより

編集・発行　函館市中央図書館
指定管理者 TRC 函館グループ
TEL　35-5500　FAX　35-5525

第１７号 平成２９年９月１日 発行

予約ランキング

図書館でたくさん予約が入っている本は何か、みなさんはご存知でしょうか。
ランキングを参考に読みたい本を探すのも一つの方法です。
ご予約は図書館の窓口、またはインターネットからどうぞ。

＼平成 29 年８月１日現在，予約回数の多かった本をご案内しています／

1	蜜蜂と遠雷	恩田　陸／著	11	劇場	又吉　直樹／著
2	素敵な日本人	東野　圭吾／著	12	みかづき	森　絵都／著
3	騎士団長殺し　第２部	村上　春樹／著	13	BUTTER	柚木　麻子／[著]
4	騎士団長殺し　第１部	村上　春樹／著	14	月の満ち欠け	佐藤　正午／著
5	コーヒーが冷めないうちに	川口　俊和／著	15	アキラとあきら	池井戸　潤／著
6	我らがパラダイス	林　真理子／著	16	夜の谷を行く	桐野　夏生／著
7	コンビニ人間	村田　沙耶香／著	17	君の膵臓をたべたい	住野　よる／著
8	九十歳。何がめでたい	佐藤　愛子／著	18	かがみの孤城	辻村　深月／[著]
9	罪の声	塩田　武士／著	19	青い服の女	平岩　弓枝／著
10	この嘘がばれないうちに	川口　俊和／著	20	変幻	今野　敏／著

イベント告知

平成２９年度　初心者のための読み聞かせ講座
テーマ『楽しく広がるお話の世界』

日　時：平成 29 年９月１４日（木）
　　１０時３０分～１２時（開場：午前 10 時）
場　所：函館市中央図書館　視聴覚ホール
定　員：150 名（申込み不要・入場順）参加費：無料
お問合せ：函館市中央図書館　　☎0138-35-5500

※詳しくは館内のチラシ・ポスターをご覧ください

これから読み聞かせを始めたいという方、
すでに読み聞かせ活動に参加されている方にも
参考になる講座です。ぜひ、ご参加ください。

ハトダヨにしか
載っていない！

ぜひ読んでみてください！

スタッフのおすすめ本

棚：A22～A24
請求記号：816.8 ｱｶ

タイトル：「赤崎水曜日郵便局」

編著：楠本　智郎　出版社：KADOKAWA　（2016 年 2 月）

熊本県南部の小さな町で行われたアートプロジェクト“赤崎水曜日郵便局”に寄せられた、ちょっと不思議な片道書簡集。「自分の水曜日の出来事」を手紙に書いて送ると「誰かの水曜日」の手紙が届く、というルールでやりとりされた手紙のうち、いくつかを抜粋し掲載しています。平凡な日常の記録や、学校の先生に教えてもらった詩、仕事中に起きた出来事を記したもの等々……手紙一枚に差出人の小さなドラマが広がります。小説やエッセイとは一味違った「知らない誰かの日常」に触れられる、ほんのりと心温まる一冊です。

棚：閉架書庫 2
請求記号：F ｷﾀ

タイトル：「さびしい王様」

著者：北　杜夫　出版社：新潮社（1980 年）

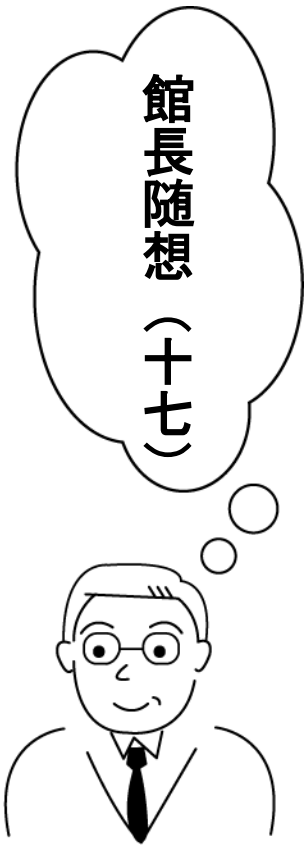
下から上へ、重々しく長ったらしく書く「王様のサイン学」や、「オレンジ娘かおっぱい娘の選択」、「恐怖の呼び鈴女」などなど、抱腹絶倒の、でもちょっともの悲しい若い王様の物語です。政治も恋愛さえも何一つわからずに、悪い役人たちの操り人形になってしまうシャハジ・ポンポン・ババサヒブ・アリストクラシー・アル・アシッド・ジョージ・ストンコロリーン二十八世王。日々の食事は毒味係にほぼ食べられてしまうし、世間のことは一向にわからないし、とっても不自由な暮らしを強いられています。ところが希代の悪総理大臣への反乱から革命が起き、王様の周辺はめまぐるしく動き始めます･･･純粋な王様が贈る、大人のための素敵な童話です。

棚：B1～B5
請求記号：Y933.7 ｻﾄ 1

タイトル：「落日の剣　上」

著者：ローズマリ・サトクリフ　出版社：原書房（2002 年 12 月）

図書館の児童室で働いていると、読むべき未読の名作がいつも気になります。毎日、目にし手にも触れ、いつか読むのだと思いつつ、何年もすぎてしまう。今年の正月に一念発起して読み始めたサトクリフ。夢中になってそのまま上半期に 15 作品まとめて読みふけりました。ローマン・ブリテン四部作も面白かったけれど、さらに凄かったのはアーサー王を扱ったこの物語でした。図書館では青少年向けコーナーにおかれていますが、大人向け歴史小説として充分の読み応えです。カリスマ王の魅力と栄光。武勇と友愛と悲哀。落日までを強く生きた伝説の勇者の物語です。現実の世界では病床と車いすの暮らしからついに自由になれなかったサトクリフだけれど、悠然と空の高みを飛ぶ鷹のような揚力と推力ある作品を、みごとこの世に残していきました。



明治四十年五月五日、石川啄木は函館にやって来ますが、大火で焼け出されたこともあり、九月十三日函館を発って札幌に移ります。その後、小樽、釧路で新聞社に勤めたことは　函館の人なら誰でも知っていることでしょう。

啄木来函から百十年目にあたり、図書館では、展示会と講演会を企画しました。展示は、昨年啄木の評伝を出版したドナルド・キーン氏の資料を基にした「ドナルド・キーン　石川啄木の日記を読み解く　最初の現代日本人」と題し、啄木とキーンゆかりの図書館を巡回展示してきたもので、函館が最後の展示会場となります。このパネルを制作した新潟県柏崎市のドナルド・キーン・センターを皮切りに、啄木生誕の地盛岡、最期の地東京の小石川、北海道で放浪した札幌、小樽、釧路、そしてキーン氏が住む東京都北区の図書館を回ってきました。函館では、九月三十日から開催しますが、函館啄木会に協力いただき、函館ならではの資料も一緒に展示する準備を進めています。

展示会初日には、元群馬大学教授で啄木研究家である、国際啄木学会名誉会員近藤典彦氏による『啄木　函館の「忘れがたき人人―六人の親友と一人の女性―』と題した講演会も開催します。展示の中で、苜蓿社の面々の写真も展示する予定ですから、講演の前に見て、話を聞き終わった後、六人の親友を確認するのもいいでしょう。楽しみにしてください。

デジタル資料館 紹介

大沼公園の秋　The Autumn of Onuma Park.　吉田初三郎画伯筆（pc000360-0004）

「函館五勝絵はがき５枚入」の１枚です。季節ごとに異なる場所を描いており、他には春の五稜郭、冬の函館の絵はがきもあります。紙面ではモノクロですが、函館市中央図書館ホームページ、デジタル資料館では繊細で美しい色彩を確認できます。

ねえ 知ってる？ えほんのヒミツ！

絵本には、お話のストーリーには影響しない背景部分にちょっとした
作者の遊び心が感じられるものがあることをご存知ですか？
それを見つけられると、もっと絵本が楽しくなります。

大人もハマる！？ 島田ゆかさんの絵本

面倒見のいい犬のバムと、やんちゃなカエルのケロが主人公の**『バムとケロ』シリーズ**。
絵をよ～く見てみると…小さい犬のヤメピや、３本みみのおじぎちゃんなど、
不思議なキャラクターがひそんでいたり、細かい絵の中に、
いろんなしかけがちりばめられているんです。
「あ！これはあのお話の…！」という発見が楽しくて、
何回も読み直してしまうこと間違いなし！
『かばんうりのガラゴ』、『うちにかえったガラコ』、
『ぶーちゃんとおにいちゃん』も、必見です。

★バムとケロの本
『バムとケロのにちようび』
『バムとケロのそらのたび』
『バムとケロのさむいあさ』
『バムとケロのおかいもの』
『バムとケロのもりのこや』

抱腹絶倒！？ 長谷川義史さんの絵本

だじゃれで都道府県を覚えられる**『だじゃれ日本一周』**。笑いすぎて、見逃したらもったいない！あんなところにも、こんなところにも、小さな『 ぼうや』がいることに気づくことができるでしょうか。**『だじゃれ世界一周』**もあるので、こちらもどうぞ。
また、ぼくとお父さんとお母さんの三人が主人公の
『うえへまいりまぁす』
『まんぷくでぇす』
『いっきょくいきまぁす』。
主人公以外もよ～く
注目してみてください。たくさんの発見がありますよ。

★他にも…
『いいからいいから１～４』
えさがしえほん
『どこどこどこ　いってきまーす』
『どこどこどこ　いってみたーい』
も合わせてみると楽しいですよ。

絵本を読む時は、絵の背景など隅から隅までよーく見ると新しい発見があるかもしれませんので、お見逃しなく！